

(1)上位関連計画における方針

1)香川県離島振興計画（小豆島地域振興計画）／香川県

【ヒト】

小豆島（小豆島町）においても、外国人観光客の受入れが再開され、インバウンド需要の獲得に向けて、世界中の観光客で1年間を通して賑わう「観光の島」を目指し、観光ビジョンの策定を検討する。さらに、小豆島内に複数ある観光組織、窓口を1本化し、機能及び発信力の強化を図るとともに、拠点整備を進める。また、大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭が同時期に開催される令和7年を目指し、小豆島をあげて京阪神との連携を図るとともに、令和3年、令和4年の2年連続で「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」に小豆島町が選出されたことを契機に、さらなる観光 SDGs の推進を図り、国内外からの観光客誘致などの取組みを強化する。

【産業】

小豆島（小豆島町）は、400年の歴史を誇る醤油産業をはじめとする佃煮、素麺などの食品産業や花きやアスパラガス、イチゴなどの農業、大坂城築城からの歴史を有する石材業などがある。オリーブについては、平成30年に植栽110年を迎え、オイルだけでなく、塩蔵や葉を使ったお茶のほか、化粧品や飼料、堆肥など、多様な形で利用されている。

島の風土・先人のたゆまぬ努力により、受け継がれてきた伝統産業や、近年において利用価値に注目を浴びているオリーブ産業など、島の魅力を存分に活かすことのできる地場産業であるが、人口減少と急速な少子高齢化に加え、地理的要因により、慢性的な人手不足及び人材不足など地場産業を支えている雇用の確保が困難な状況となっており、次代への継承に深刻な影響を及ぼしている。

【環境】

小豆島（小豆島町）の美しい山と海に囲まれた豊かな自然環境は、大きな魅力であり、令和6年には瀬戸内海国立公園指定90周年を迎える。歴史とともに育まれ、豊かな自然と島人の営みが育んだ貴重な宝物として後世に残していくため、調査・研究、情報発信等を進めていく。名勝寒霞渓を有する小豆島の森林資源の確保と国土保全を図るため、植栽、間伐、育林事業をはじめ、森林害虫の予防、被害木の駆除などを継続的に実施する。また、緑化推進活動、海岸

【移動】

小豆島（土庄町）には、土庄港を拠点として、高松～土庄、岡山～土庄、宇野～豊島～土庄、小豊島～土庄を結ぶ航路があり、小豆島の玄関口として土庄港（オリーブポートとのしょう）が機能している。また、同町の大部港からは、日生～大部航路があり、京阪神方面への移動に利用されている。

小豆島（小豆島町）の航路については、高松～池田、姫路～福田を結ぶ航路があり、また、平成23年には、16年ぶりに運航が再開された神戸～坂手～高松を結ぶ航路がある。

また、島内の主要な公共交通機関である路線バスについては、現代の車社会により、利用者数が減少している状況にあるものの、高校生や高齢者などのいわゆる交通弱者の重要な移動手段として、維持、確保する必要がある。

2)小豆島地域公共交通計画／小豆島町・土庄町

【移動】

- ・まちづくりの新たな拠点として池田地区への接続などを強化し、平均乗降人数5,000人以上を目標
- ・3つの地域拠点と港湾（交通拠点）、主要観光拠点を円滑に連絡

(1) 数値目標 1

新たな拠点（池田地区）における平均乗降人数を5,000人/月以上

数値目標1については、新たに整備された小豆島中央病院及び小豆島中央高校を拠点としたまちづくりの形成を把握するための指標であり、今回の数値目標は達成された。拠点性の高い、コンパクト+ネットワークのまちづくりは、人口減少下における当該地域にとって、引き続き重要な施策である。今後、草壁港のフェリー休止を受け、池田港周辺の拠点性・利便性向上はさらに求められることから、引き続き、まちづくりの拠点として池田地区への接続などの強化が求められる。

7.2 基本的な方針に基づく方向性

基本的な方針に基づき、小豆島地域における公共交通の方向性について以下のとおり検討した。

方向性1	コンパクト+ネットワークのまちづくりと連携し、3つの地域拠点と港湾（交通拠点）、主要観光拠点を円滑に連絡し、骨格としての公共交通網を形成する
方向性2	人々の移動実態やニーズに応じた柔軟な運行形態をきめ細やかに見直すことにより、誰もが安心して快適に移動できる公共交通サービスを提供する
方向性3	小豆島地域における複数の交通モード（交通手段）を最大限活用するとともに、人々にとって使いやすい、分かりやすいサービス向上を検討・実践する
方向性4	年間利用者数を維持・向上し、収支環境の健全化・公的負担の削減を目指す

■小豆島地域の公共交通現況図



3)第2期小豆島町の総合戦略／小豆島町

【ヒト】

- ・坂手港に観光振興ターミナルを整備し、観光や交流、移住等を推進
- ・外国人観光客を含む来島者の受入環境を整備し、観光満足度の向上、リピーターや小豆島ファンの更なる増加
- ・小豆島観光客数：令和元年1,153千人 ⇒ 令和6年1,200千人

情報発信

町ホームページやSNS等による小豆島の魅力発信を行う。昨今のSNS普及に伴う情報拡散力をより効果的に活用することで国内外に広く発信していく。

島外へのPR出展

京阪神における観光物産イベント等に積極的に参加し、小豆島の観光資源や特産品など多くの方に触れてもらうことで、交流人口・関係人口の増加に繋げていく。

他団体等との協働

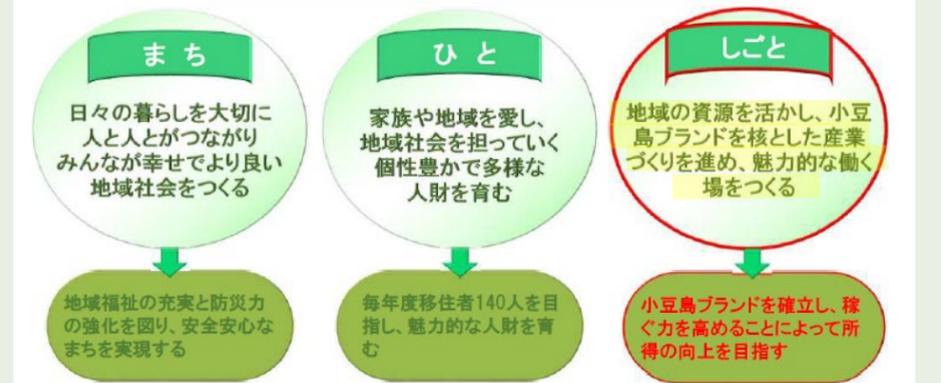
島内観光関連事業者や団体、地元企業等と連携、協力を図り、観光物産PRや情報発信等を行う。また、商談会や見本市など小豆島のPRに繋がる取り組みを支援していく。

受入環境の整備

多言語案内の整備など外国人観光客を含む来島者の受入環境を整備し、観光満足度の向上、リピーターや小豆島ファンの更なる増加に繋げていく。

【産業】

- ・地域資産が連動し、相乗効果を産むことで小豆島の独自価値が確立
- ・小豆島の観光資源や特産品など多くの方に触れてもらうことで、交流人口・関係人口の増加を目指す



**3. 産業づくり**

- ① 地域資源を活かした小豆島ブランドを確立し、稼ぐ力を高めることによって、所得向上を目指す
- ② かがわ外国人相談支援センター等と連携し、外国人の受入と共生に向けたあり方をつくる
- ③ 農泊事業の展開等、島の新たな宿泊環境をつくる
- ④ 2025大阪・関西万博を絶好のチャンスにし、あらゆる手段を尽くして、小豆島のPRを実施する

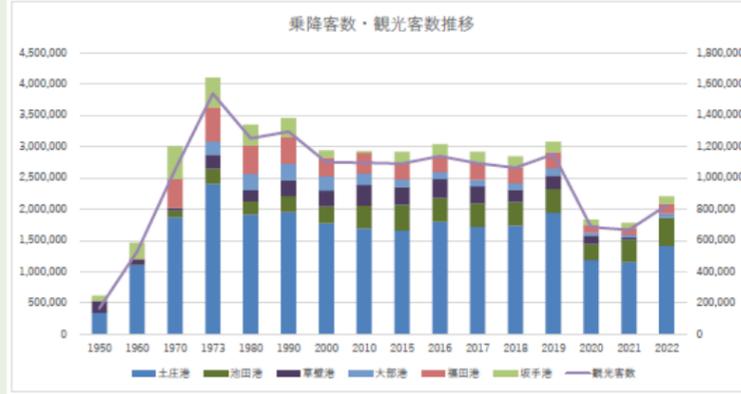
**6. つながり・交流**

- ① 地域おこし協力隊の制度を活用し、新たな視点で地域の魅力を引き出し、地域課題の解決を目指す
- ② 小豆島を応援する関係人口の増加を目指すため、大学等との包括連携協定を増やす
- ③ 福祉ハウスを活用するなど、国際化に向けた人財育成に取り組む
- ④ 通院、通学、物流、観光等の基盤となる道路・港湾・橋梁等の整備を進めるとともに、坂手港に観光振興ターミナルを整備し、観光や交流、移住等の推進を図る
- ⑤ 草壁港については、香川県への移管を協議し、国、県、町、民の連携により観光港として整備を進める
- ⑥ 香川県や香川大学等と連携し、先端技術（自動運転、AI、5G等）の研究を推進する

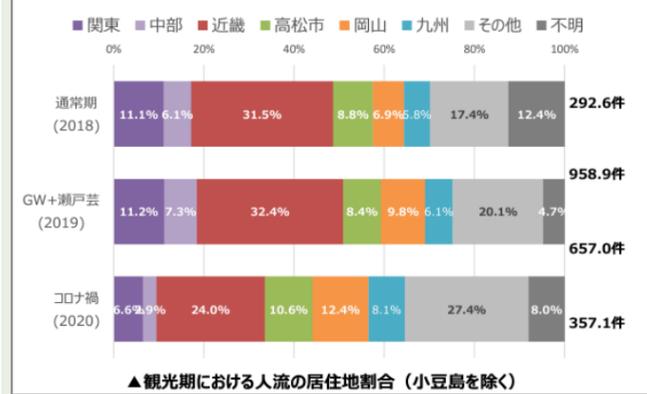
(2) 周辺エリアの観光動向

1) 周辺エリアの観光動向

■小豆島の観光客

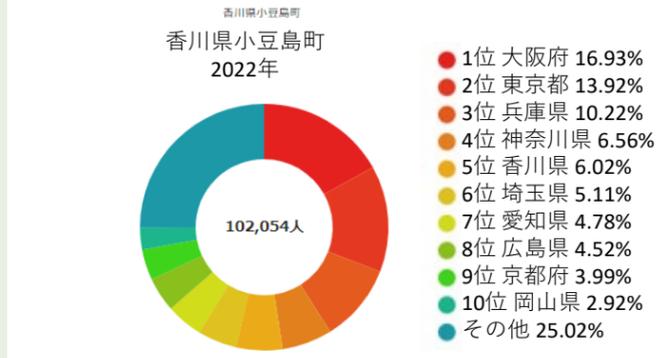


出典：小豆島地域公共交通計画参考資料／小豆島町・土庄町



出典：小豆島地域公共交通計画参考資料／小豆島町・土庄町

居住都道府県別の延べ宿泊者数 (日本人) の構成割合



出典：「RESAS (地域経済分析システム)」 (R5年6月28日利用)

Q2 これまでの小豆島への旅行は以下のどれにあたりますか。  
※あてはまるものを全てお答えください。

エリア別	全体	小豆島が目的の泊2日以上旅行	小豆島が目的の泊1日旅行	他のエリアが目的の泊2日以上旅行 (小豆島を含む日帰り旅行)	他のエリアが目的の小豆島への立ち寄り (小豆島には宿泊せず)	その他
全体	728	64.1	17.0	25.7	10.6	10.0
関西圏	220	72.3	10.9	20.5	10.9	8.6
中国圏	145	53.1	14.5	30.3	9.7	10.3
九州圏	73	69.9	15.1	16.4	15.1	16.4
関東圏	145	74.5	17.2	17.2	16.6	13.8
四国圏 (小豆島を除く)	145	49.7	29.7	42.1	2.8	4.8
性別						
男性-計	431	68.2	15.3	24.8	10.7	8.6
男性18~34歳	108	72.2	15.7	22.2	10.2	6.5
男性35~50歳	147	70.7	20.4	21.1	10.2	11.6
男性51歳以上	176	63.6	10.8	29.5	11.4	7.4
女性-計	297	58.2	19.5	26.9	10.4	12.1
女性18~34歳	138	55.1	22.5	26.1	7.2	13.8
女性35~50歳	94	64.9	19.1	22.3	11.7	8.5
女性51歳以上	65	55.4	13.8	35.4	15.4	13.8

出典：小豆島観光協会GAP調査

■外国人観光客

- 高松駅エリアを起点に栗林公園、金毘羅宮エリアを周遊している外国人観光客の一部が小豆島にも立ち寄り (エンジェルロード・マルキン醤油記念館)
- 外国人観光客の周遊行動は年間を通じて同様の傾向

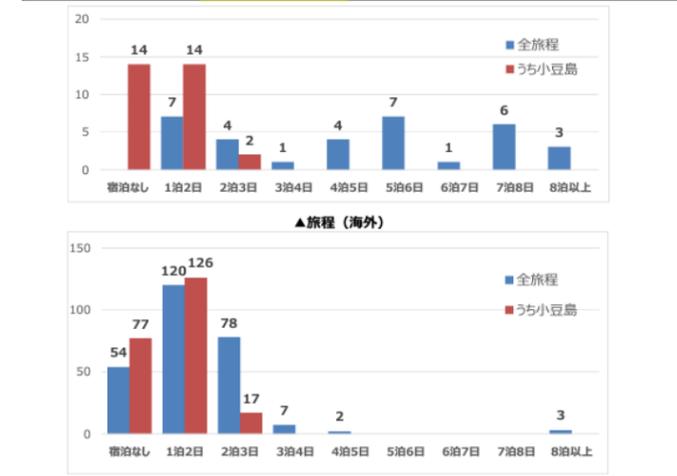
(6) 香川県 @地区内周遊状況 (高松・直島・琴平・小豆島地区)



出典：平成29年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査 (せとうち・海の道) 調査結果報告書 / せとうちDMO

(3) 旅程

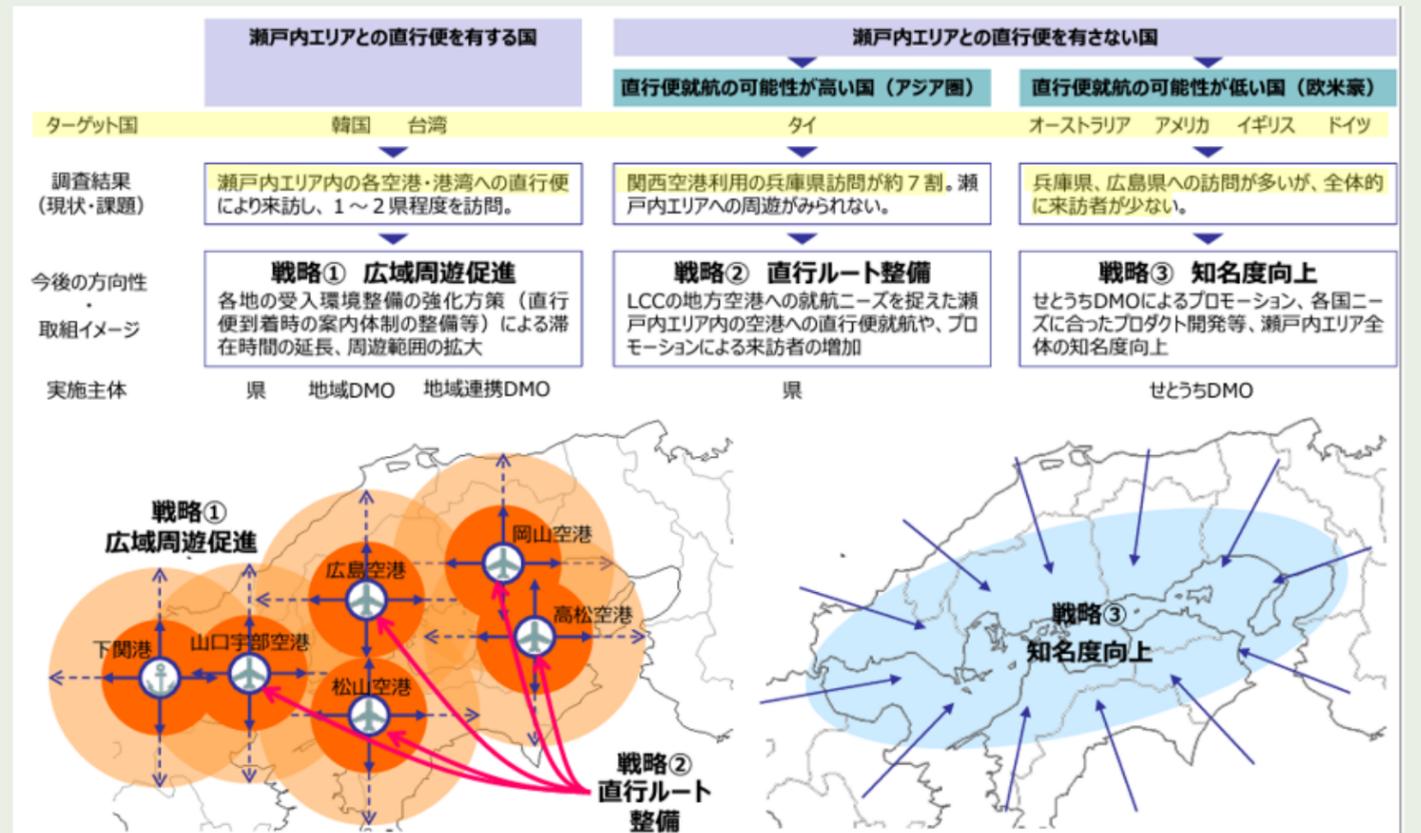
外国人観光客の旅程は、「1泊2日」もみられるものの、全旅程のうち4泊以上の長期滞在が多い傾向にある。一方で小豆島に滞在する日数は、「宿泊なし」が半数程度あるものの、「1泊2日」以上も半数程度みられる。  
また、国内観光客については、全旅程のうちほとんどが「2泊3日」以内と短いもの、こちらも半数程度が小豆島に宿泊している。「1泊2日」が半数程度。



出典：H30観光客アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ) / 出典：H30観光客アンケート調査 / 小豆島地域公共交通協議会

2) 瀬戸内エリアにおける観光戦略

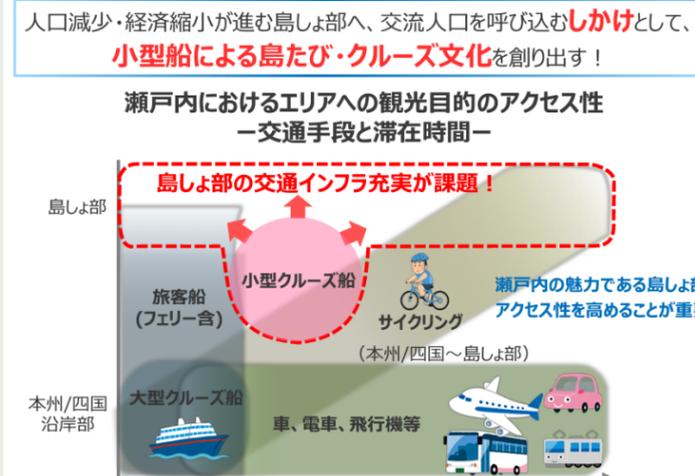
■外国人観光客のエリア周遊に向けた戦略



出典：平成29年度広域観光周遊ルート形成促進事業外国人観光客の動態調査 (せとうち・海の道) 調査結果報告書 / せとうちDMO

■瀬戸内海クルージングに関する取組み

- 既存航路を活用した観光周遊モデルコースの設定及び広報宣伝 (瀬戸内海観光連携推進会議)
- 人口減少・経済縮小が進む島しょ部へ交流人口を呼び込むしかけとして小型船による島たび・クルーズ文化を創り出す



出典：瀬戸内クルーズネットワーク構想 / 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会 (JAPIC)



出典：平成27年瀬戸内海観光連携推進会議参考資料

## (3)関係者ヒアリング結果（概要）

■実施概要		
<ul style="list-style-type: none"> <li>目的：地域の事業者及び各団体等の意向等を把握するため、ヒアリング調査を実施</li> <li>実施日：7月18日～8月4日</li> <li>参加状況：28者（内書面のみ回答1者）</li> </ul>		
■実施結果（抜粋）		
【現状認識（小豆島ふるさと村）】	【現状認識（周辺、島全体）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>小豆島ふるさと村は島の中心にあり立地がよい</li> <li>国民宿舎からの眺めはよく、島内随一の夕陽は素晴らしいコンテンツであるが、活かされてない</li> <li>全体的に施設が老朽化</li> <li>屋内（全天候）型の子育て施設や遊具が必要</li> <li>島民利用の運動施設等は他施設での代替も可能</li> <li>冬季は季節風が強く、船が接岸しにくい</li> <li>小豆島ふるさと村はメイン観光ルート上ではないため、サインや公共交通、二次交通等で引き込む必要がある</li> <li>小豆島ふるさと村内の公園は主に週末に子どもの利用が多く、非営利施設だが公共機能として重要</li> <li>オリーブ公園、二十四の瞳映画村、坂手港、草壁港との連携が必要</li> <li>国民宿舎は集合風呂であり、インバウンドには抵抗がある</li> <li>情報発信不足（企画・運営等が認知されていない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島内で食事（昼食・夕食）できる場所が少ない（今後の泊食分離も踏まえ）</li> <li>来訪者が地元の魚介類を買える場所が無い</li> <li>市場に出せない品物を販売できる場（産直）が必要</li> <li>池田港の産直市場は駐車場の不足、中央病院前は交通渋滞の課題がある</li> <li>宿泊施設の充実だけでなく、飲食施設など島全体で受け入れ態勢を整える必要がある</li> <li>島内移動手段に関する情報発信が重要</li> <li>インバウンドは高松からの乗船が多く、高松空港、関西国際空港、岡山空港を經由している</li> <li>日本リピーターのインバウンドは瀬戸内等地方を巡ることが多い</li> <li>コロナ後は台湾、中国からのインバウンドが最多</li> <li>看板商品が必要</li> <li>滞在型の観光地となるべき</li> </ul>	
【整備基本計画の方向性】	【整備基本計画のハード面】	【整備基本計画のソフト面】
<ul style="list-style-type: none"> <li>高低差を活かしたエリア毎のターゲット設定</li> <li>宿泊施設（ゾーン）のターゲットは富裕層がよい</li> <li>宿泊ゾーンは独立した管理も考えられる</li> <li>この場所で稼ぐことの重要性を説明できるとよい</li> <li>閑散期（平日、冬期）の採算性を十分に検討</li> <li>固定費を考慮し、施設は集約し、コンパクトにする</li> <li>海の駅、道の駅の二つの魅力を兼ね備えた施設</li> <li>観光の拠点かつ、地域の拠点機能も兼ねる</li> <li>非営利施設の運用については十分検討が必要</li> <li>マルチモビリティステーション化（二次交通拠点）</li> <li>物販は、観光客は特産品・島民は品揃えが重要</li> <li>働き方を柔軟化して人員確保、若者の雇用に繋げる</li> <li>島内外に限らず高校生の意見を聞くことは重要</li> <li>島内の学校に赴任してきた先生に聞けるとよい</li> <li>障がい者の方も一緒に楽しめる施設があるとよい</li> <li>小豆島ふるさと村内の移動は自動運転・キックボードなど安価かつ気軽に利用できる手段があるとよい</li> <li>個人旅行者だけでなく、企業・事業者へのPRも重要（情報発信の強化、認知向上など）</li> <li>2025年万博後の集客を見据えた広域連携</li> <li>見せる産直・体験施設には、インキュベーションの視点があるとよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>充実した飲食施設、BBQ施設及びバー等の整備</li> <li>島民の日常利用可能な施設（物販・飲食機能）</li> <li>プールは無くてもよい、年間を通じて利用できる親水エリアに</li> <li>海沿いの立地を活かしたグランピング</li> <li>キャンプ場は飲食機能を追加してカジュアルな施設として利用</li> <li>運動場機能は代替し、誰もが使えるような場所へ</li> <li>宿泊施設とキャンプ場を繋ぐ動線を整備</li> <li>手延そうめん館は、産業育成の場や観光客の体験の場へ</li> <li>瀬戸内海で多いヨット利用者用に釣り桟橋の修繕・強化</li> <li>道路幅員（アクセス及び敷地内）等の交通安全確保</li> <li>日帰り客やキャンプ場利用者も利用できるシャワー・温浴施設</li> <li>加工者が不足しているので、加工場ができるとよい</li> <li>子連れでの飲食、イベント施設、子育て応援施設</li> <li>ホテル内リラクゼーション施設（島民利用可）</li> <li>サイクリスト向けの施設</li> <li>釣り（夜釣り、弁天島周辺）ができる場所の整備</li> <li>海の駅機能として、発電、集電、蓄電、給電可能施設</li> <li>利用者動線の区分（富裕層と一般層など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ここでしか食べられない（地産地消）、体験（農業・漁業及び地場産業）できないコンテンツの造成</li> <li>マリリアクティビティの充実（安全管理の徹底）</li> <li>ナイトコンテンツ（夜釣り、飲食、バー等）の充実</li> <li>予約なしで楽しめるコンテンツの充実</li> <li>一般車両（後部座席等の活用）を活用した観光客の移動手段や、農産物の集荷（貨客混載）など</li> <li>夕陽コンテンツを活用したリトリート</li> <li>島民利用の促進により新たなコミュニティ形成、来訪者と島民のコミュニティ形成も期待</li> </ul>